

FormPat 4

環境設定ガイド

Digital Assist Corporation

2015/01/09



Copyright(C) 2015 Digital Assist Corporation. All rights reserved.

目次

目次	2
はじめに	3
必要システム	4
IIS のインストール	5
データベースのインストール	11
FormPat のインストール	17
FormPat 承認期限監視サービスオプションのインストール	18
フォルダファイル のインストール	19
IIS の設定	20
データベースの設定	26
環境ファイルの設定	27
Web.config ファイルの設定	27
システム環境ファイル(control.config)の設定	27
FormPat の動作確認	30
統合 Windows 認証について	31
インポートオプションについて	33

はじめに

本書では、電子フォームとワークフローシステム FormPat 4（以下、FormPat）を稼働させるために必要な環境設定の方法を説明します。

本書は、FormPat Ver.4.0.1.1 以降を対象としています。

本書に掲載されている会社名、製品名は、それぞれ各社の商標です。

必要システム

サーバー	
オペレーティングシステム	Windows Server 2012 R2 / 2012 / 2008 R2 / 2008 / 2003 ※最新の Windows Update を適用してください。特定のブラウザで正常に動作しない現象を回避するためです。
データベース	SQL Server 2014 / 2012 / 2008 R2 / 2008 / 2005 SQL Server 2014 / 2012 / 2008 R2 / 2008 / 2005 Express ※ Express はデータベースサイズ、同時接続ユーザー数等に制限があります。マイクロソフト社の HP を参照してください。
クライアント	
オペレーティングシステム	Windows PC - Windows 8.1 / 8 / 7 / Vista iPad – iOS Tablet - Android
ブラウザ	Windows PC - Internet Explorer(以下、IE) 11 / 10 / 9, Chrome, Safari, Firefox iOS – Safari Android - Chrome 印刷機能は IE 32 ビット版のみで動作します。ただし、Windows 8.1 および 8 の 32 ビット版の Metro (Windows ストアアプリ)の IE では印刷ボタンは表示されますが機能しません。下記の注意点も参照してください。
注意点	
サーバーのホスト名	0~9、a~z、A~Z、-(アンダーバーではなくハイフン)の文字に制限します。 ホスト名の文字制限は RFC952 で定義されています。 制限以外のホスト名で運用される場合は、IP アドレスでアクセスしてください。
クライアントのログイン	IE 32 ビット使用時、初回ログイン時(および ActiveX コントロールのバージョンアップ時)に、ActiveX コントロールをインストールします。この時、管理者権限(Administrators, PowerUsers グループ)のあるユーザーで Windows にログインしている必要があります。
IE11 の印刷機能	IE11 では FormPat のサイトを「信頼済みサイト」へ登録が必要です。

IIS のインストール

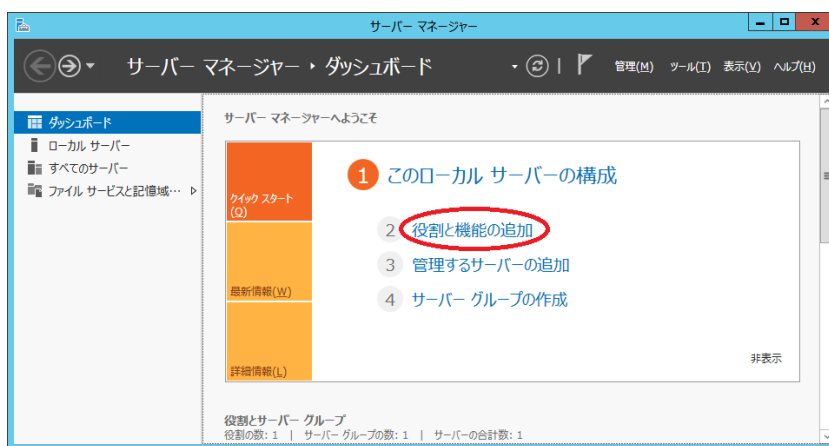
本章では、Windows Server 2012 R2 および Windows Server 2012 について記述します。他の OS については「FormPat 3.0 環境設定ガイド（補足）」を参照してください。

IIS(インターネット インフォメーション サービス)のインストールを行います。既に IIS の環境が整っている場合は、次章へ進んでください。

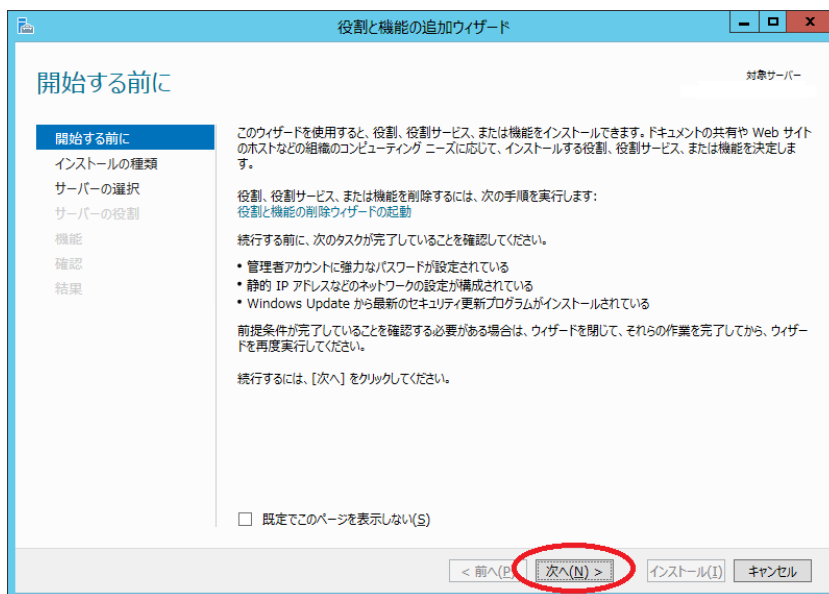
※Windows Server 2012 R2 および Windows Server 2012 は標準でインストールされていません。

1. [サーバー マネージャー]を起動します。

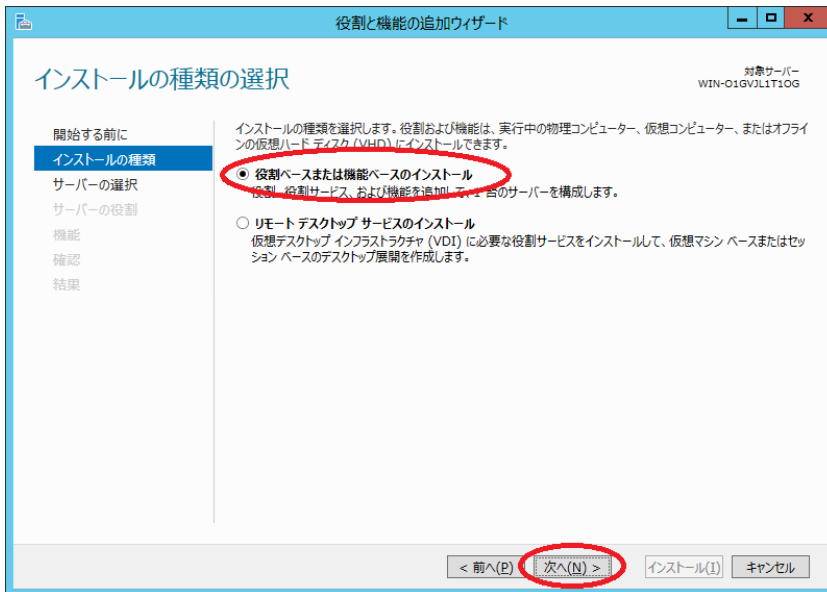
サーバーマネージャーでは、[役割と機能の追加]をクリックします。



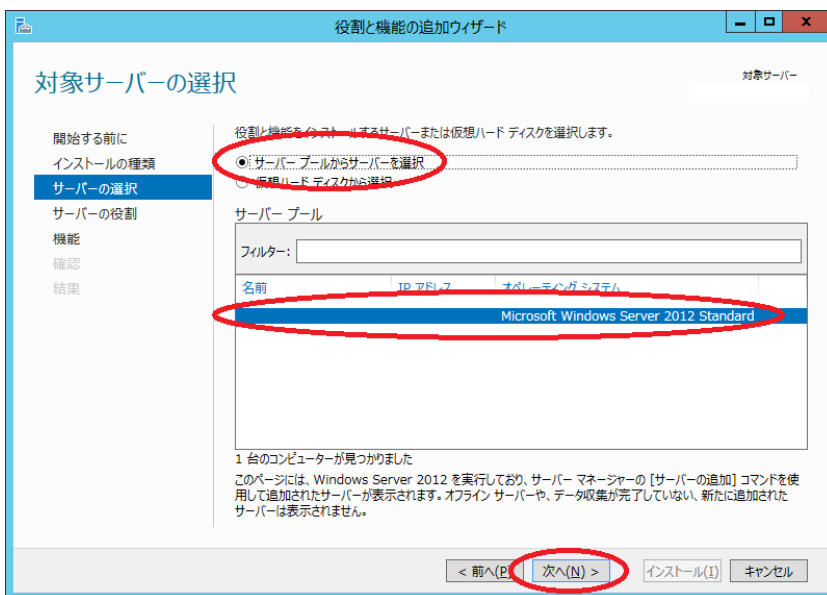
2. 開始する前にでは、[次へ>]をクリックします。



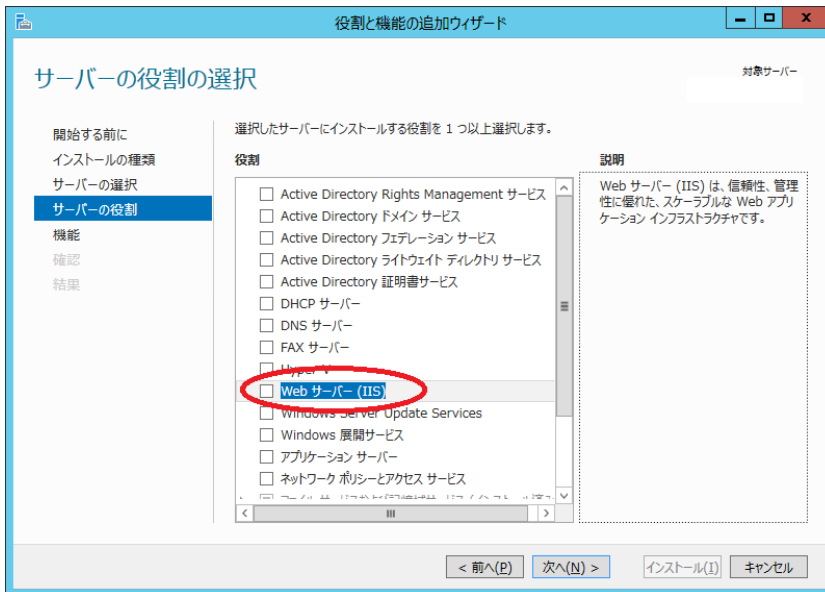
3. インストールの種類を選択では、[役割ベースまたは機能ベースのインストール]を選択し、[次へ]をクリックします。



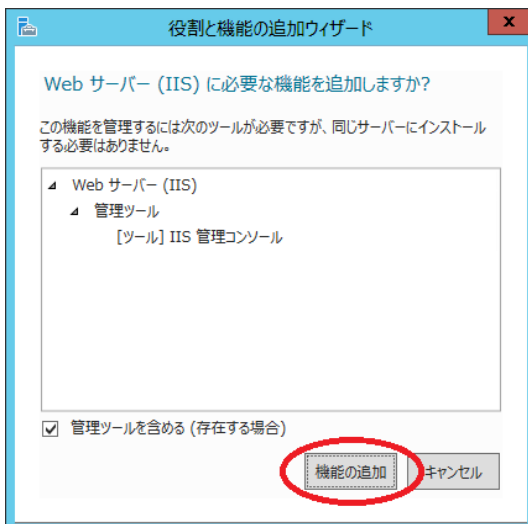
4. 対象サーバーの選択では、[サーバープールからサーバーを選択]を選択、該当サーバーを選択し、[次へ]をクリックします。



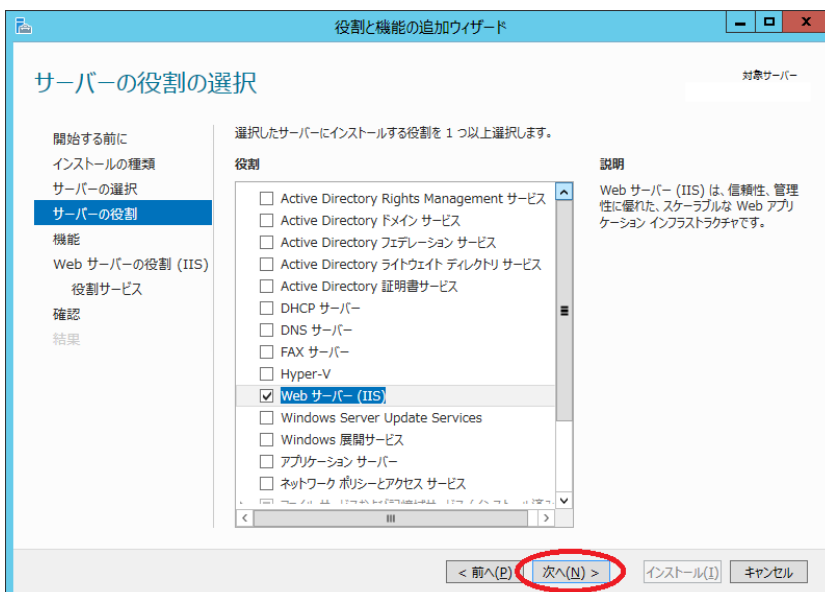
5. サーバーの役割の選択では、[Web サーバー(IIS)]を選択します。



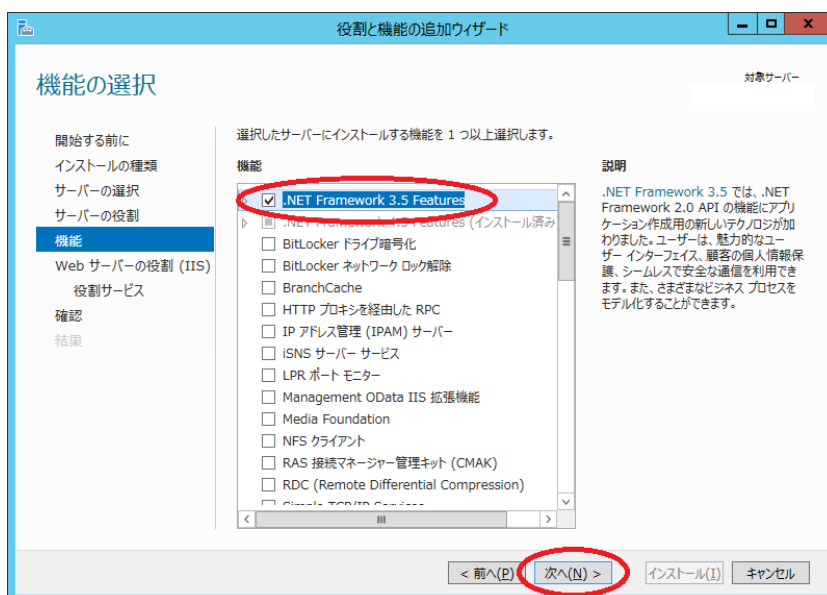
6. ポップアップ画面では、[機能の追加]をクリックします。



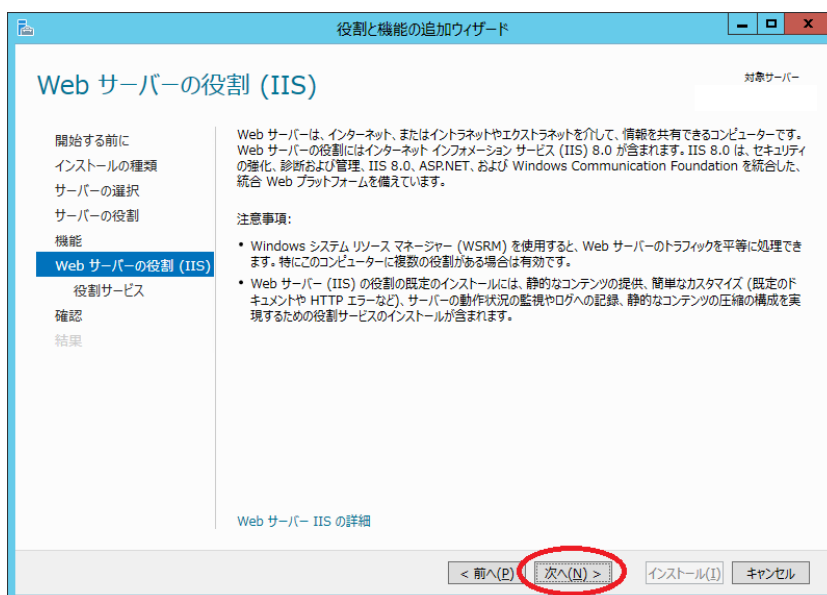
7. サーバーの役割の選択に戻ると、[次へ>]をクリックします。



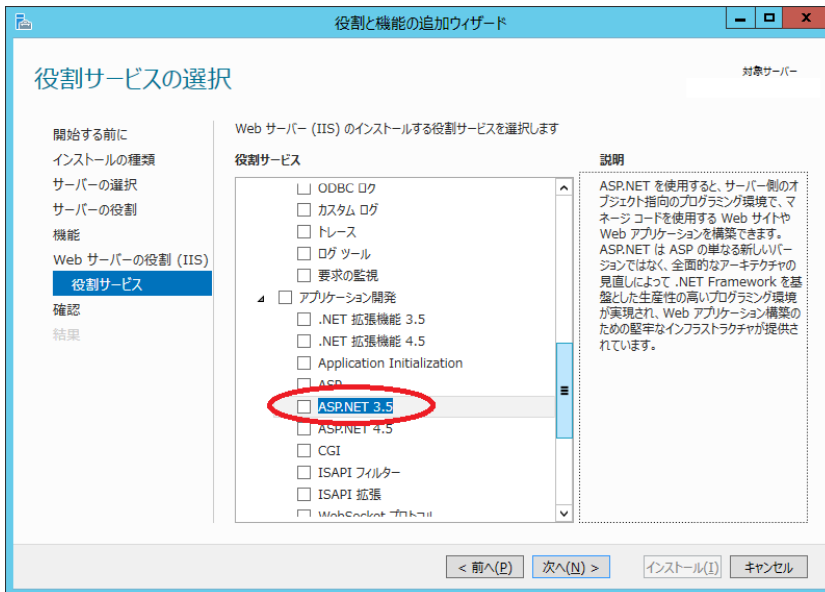
8. 機能の選択では、[.NET Framework 3.5 Features]を選択し、[次へ]をクリックします。



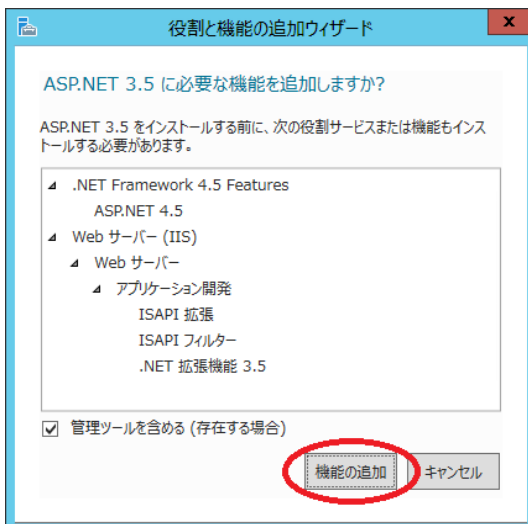
9. Web サーバーの役割(IIS)では、[次へ]をクリックします。



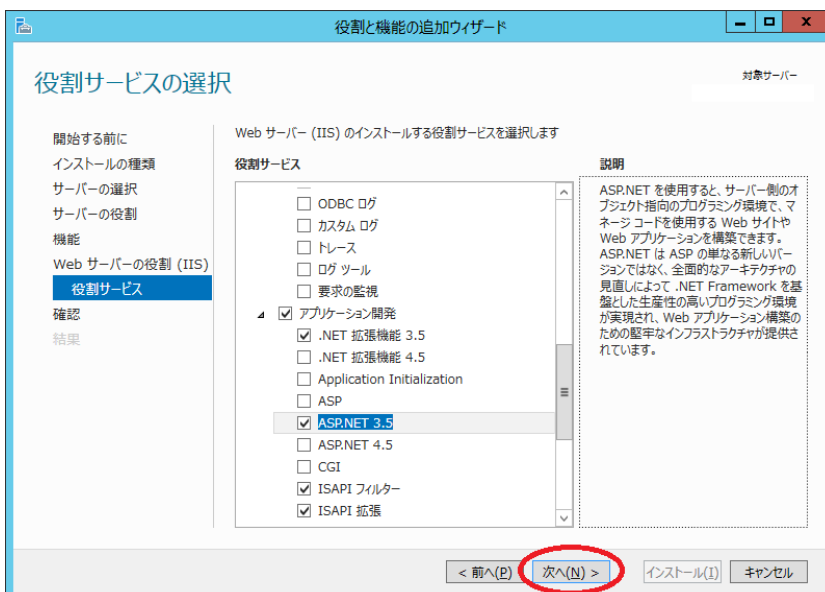
10. 役割サービスの選択では、[アプリケーション開発]を展開、[ASP.NET 3.5]を選択します。



11. ポップアップ画面では、[機能の追加]をクリックします。



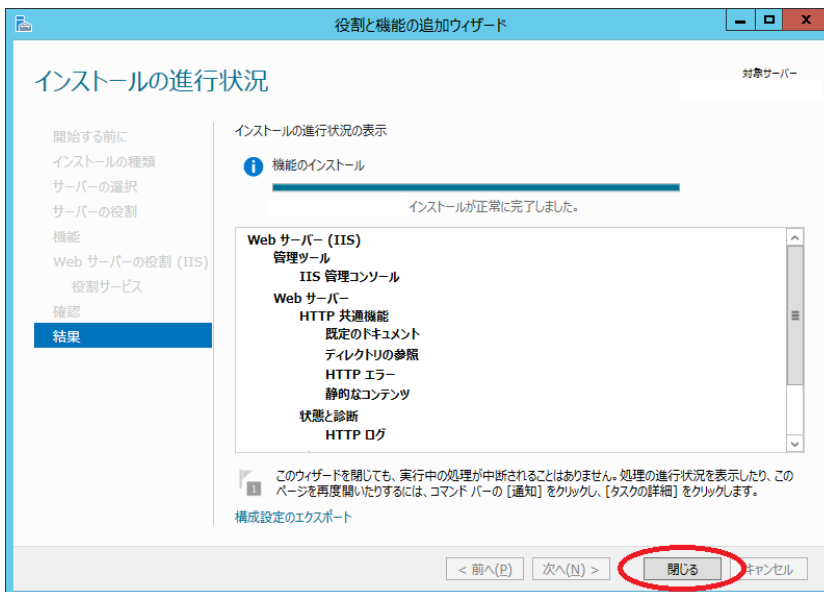
12. 役割サービスの選択に戻ると、[次へ]をクリックします。



13. インストールオプションの確認では、[インストール]をクリックします。



14. インストールの進行状況でインストールの完了を確認し、[閉じる]をクリックして終了します。



15. サーバーマネージャーを終了します。

データベースのインストール

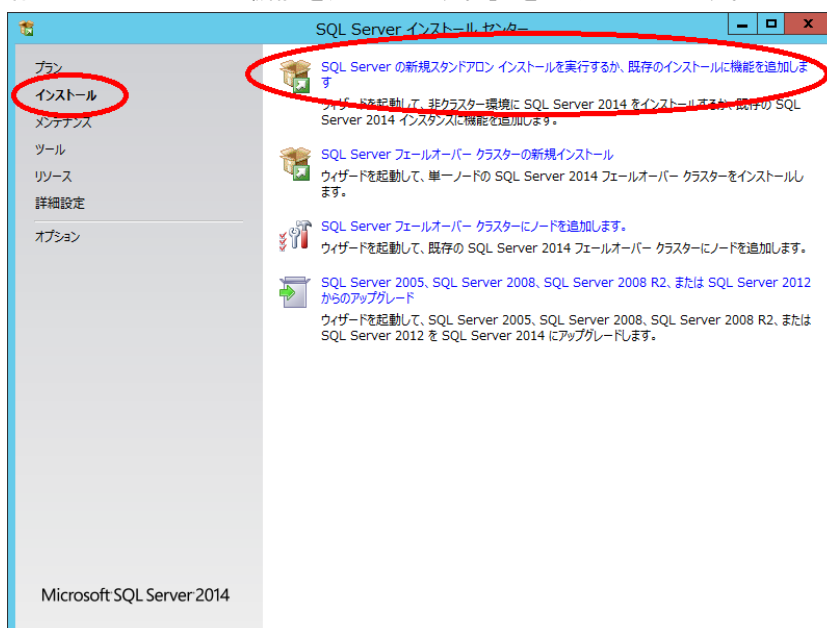
本章は、SQL Server 2014 および SQL Server 2014 Express with Advanced Services（以下、Express）について記述しています。

SQL Server 2012 については「FormPat 4 環境設定ガイド（補足）」、その他の SQL Server については「FormPat 3.0 環境設定ガイド（補足）」を参照してください。

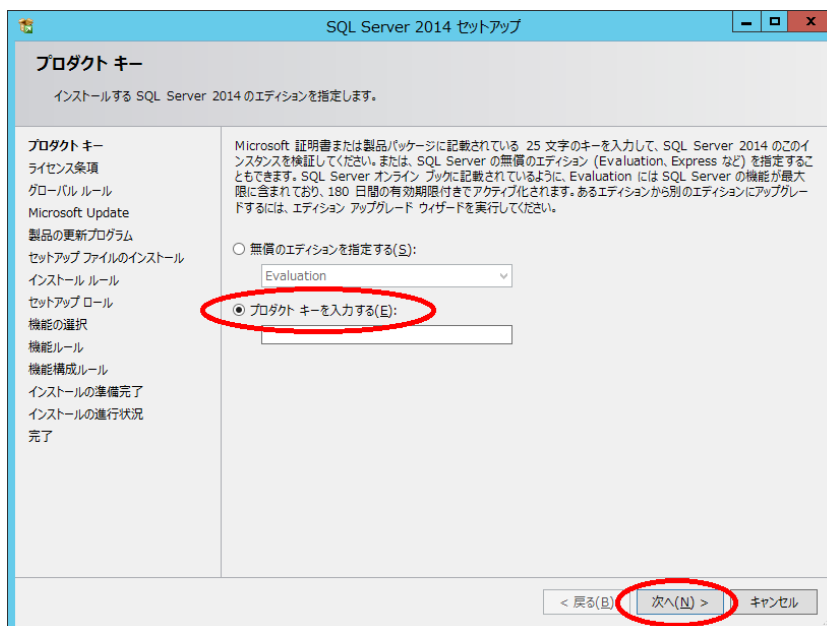
1. SQL Server 2014 のインストールを開始します。

以降の画面はエディションにより表示されない場合があります。

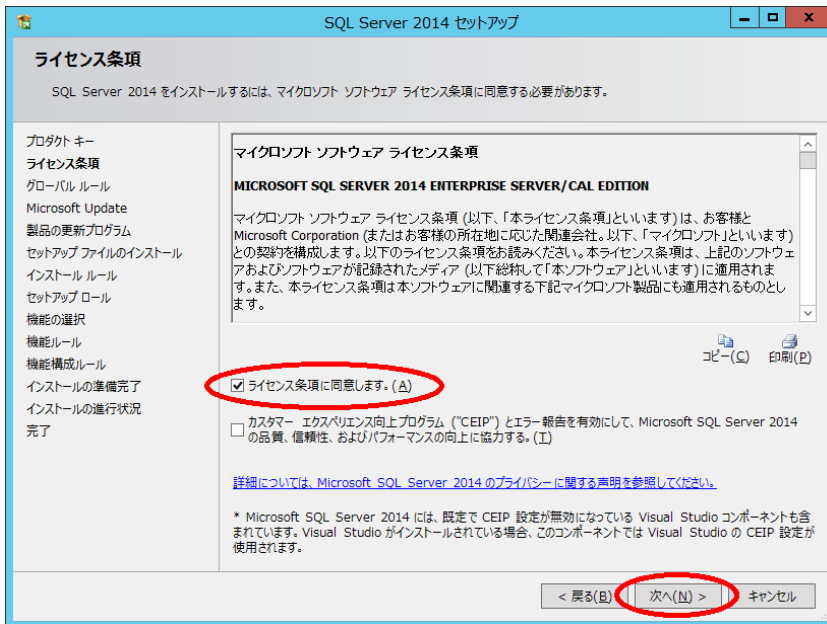
[インストール]より[SQL Server の新規スタンドアロンインストールを実行するか、既存のインストールに機能を追加します。]をクリックします。



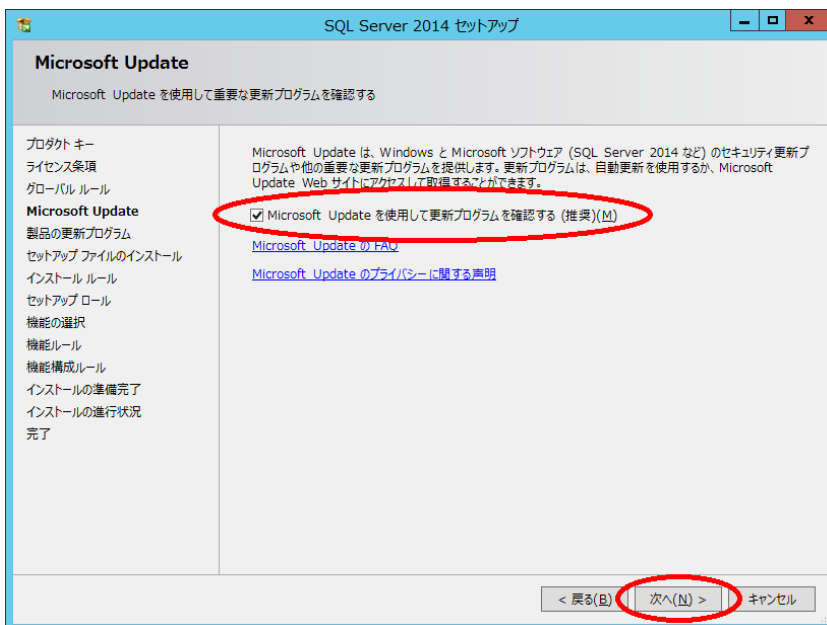
2. プロダクトキーでは、プロダクトキーを入力し、[次へ]をクリックします。



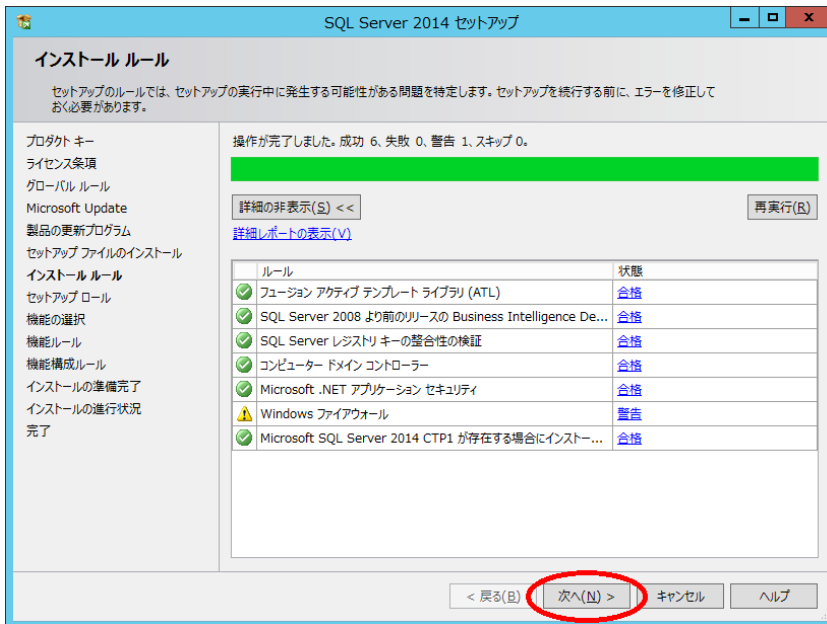
3. ライセンス条項では、[使用許諾契約書に同意します。]を選択し、[次へ]をクリックします。



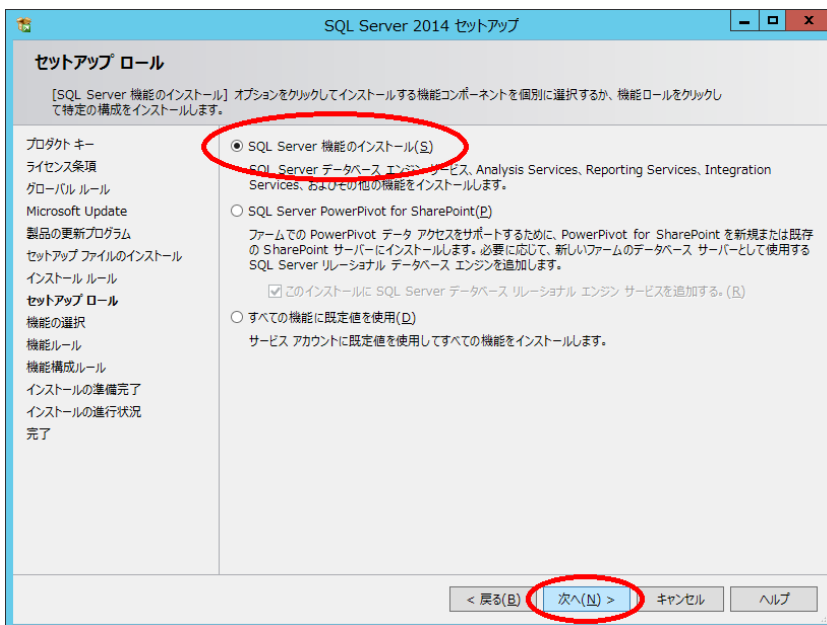
4. Microsoft Update では、[Microsoft Update を使用して更新プログラムを確認する]を選択し、[次へ]をクリックします。



5. インストールルールでは、[次へ]をクリックします。



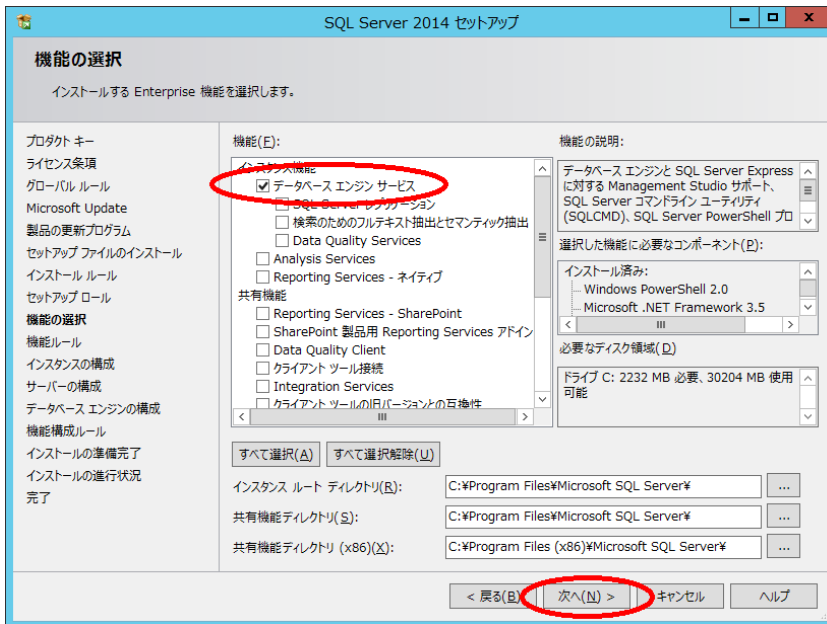
6. セットアップルールでは、[SQL Server 機能のインストール]を選択し、[次へ]をクリックします。



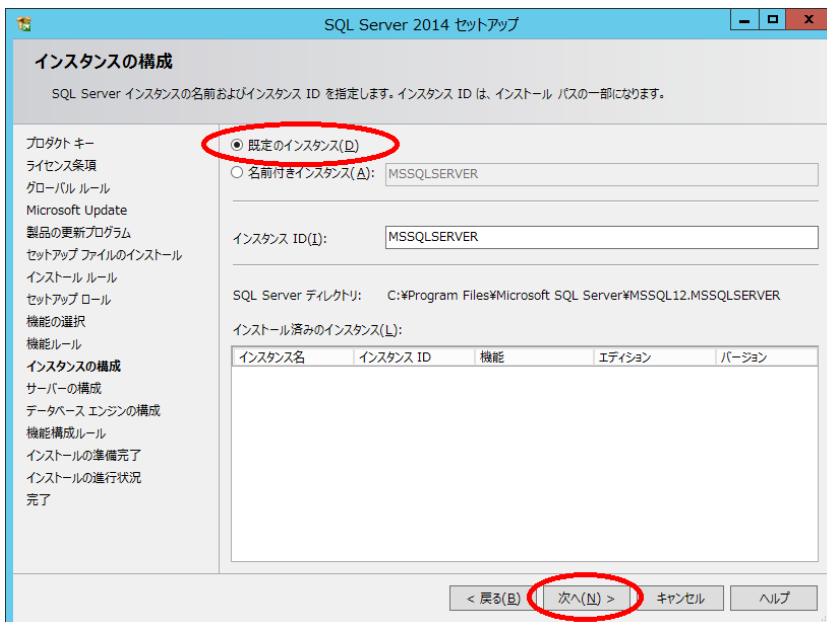
7. 機能の選択では、[データベースエンジンサービス]、[管理ツール-基本]を選択し、[次へ]をクリックします。

その他のコンポーネントは任意に追加してください。

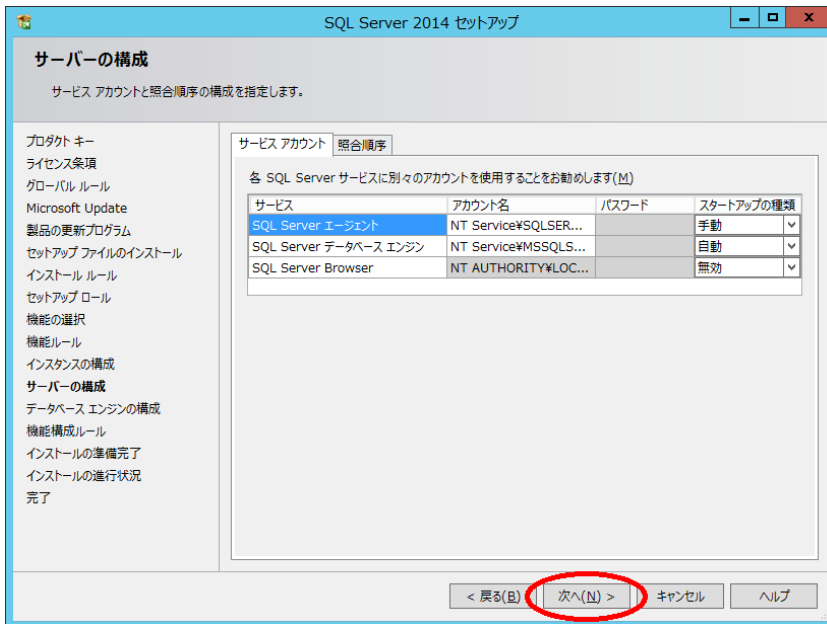
※画面では[管理ツール-基本]が枠外のため表示されていませんが選択してください。



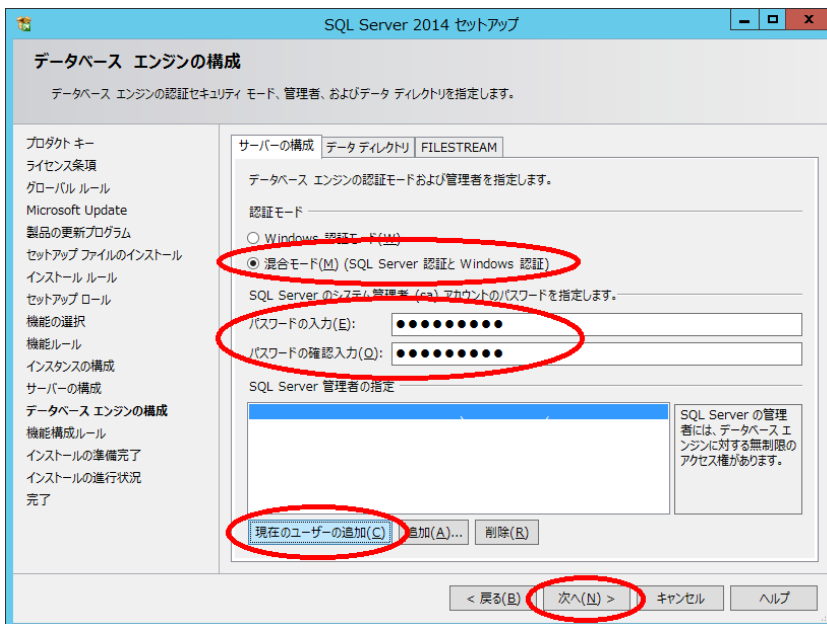
8. インスタンスの構成では、[既定のインスタンス]を選択し、[次へ]をクリックします。



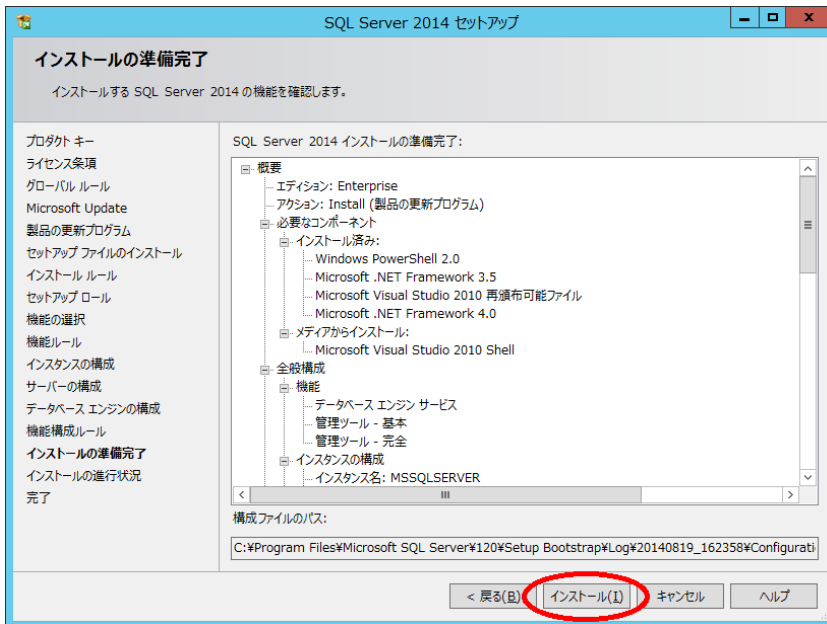
9. サーバーの構成では、[次へ]をクリックします。



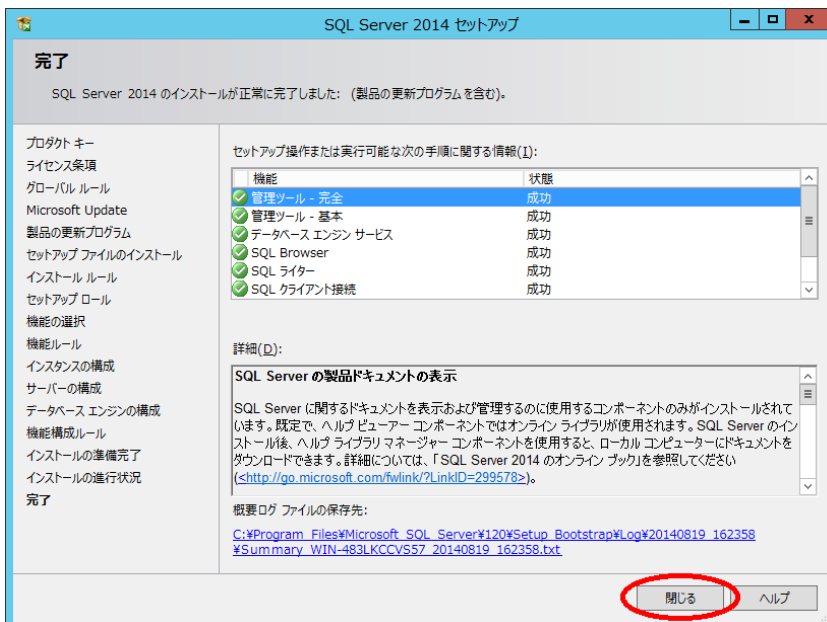
10. データベースエンジンの構成では、[混合モード (SQL Server 認証と Windows 認証)] を選択、SQL Server のシステム管理者 (sa) アカウントのパスワードを入力、[現在のユーザーの追加] をクリックし、[次へ] をクリックします。



11. インストールの準備完了では、[インストール] をクリックします。



12. 完了では、[閉じる]をクリックします。



13. Express は以下の追加設定が必要です。

[SQL Server 構成マネージャー]を起動し、左ペインの[SQL Server ネットワークの構成]→[MSSQLSERVER のプロトコル]を選択、右ペインの[TCP/IP]を選択、[操作]→[有効化]を選択します。

TCP/IP の状態が有効になったことを確認後、[SQL Server 構成マネージャー]を終了します。

14. [SQL Server Management Studio]を起動し、サーバー名を右クリックして[停止]を選択します。

停止後、サーバー名を右クリックして[開始]を選択します。開始後、[SQL Server Management Studio]を終了します。

FormPat のインストール

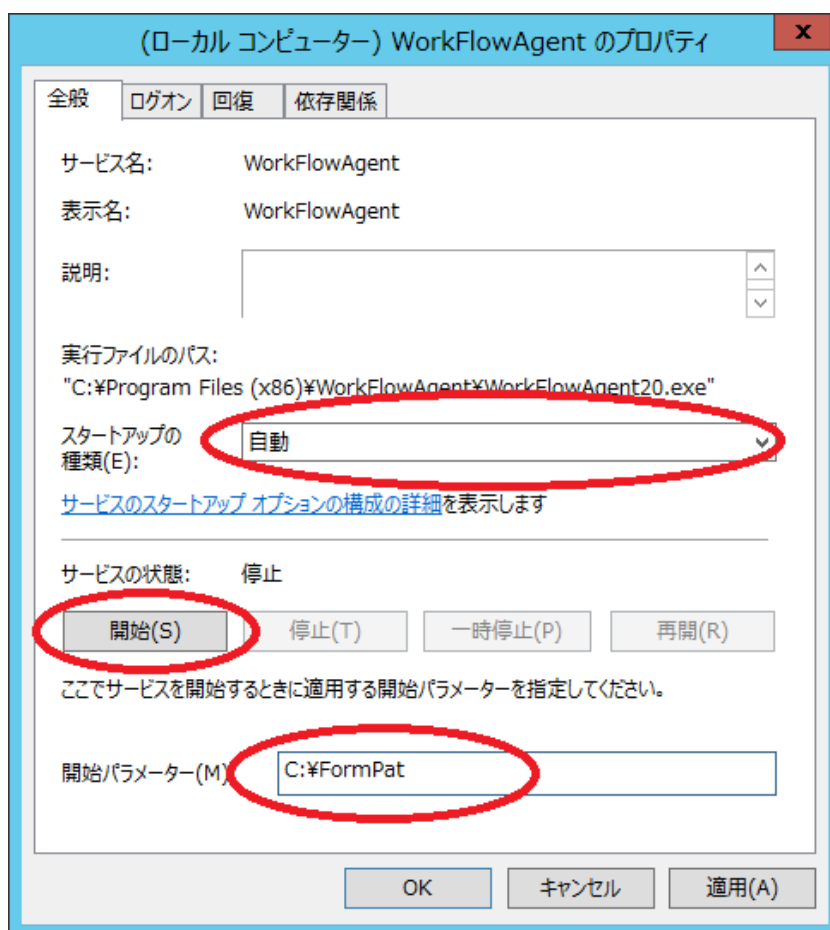
1. Digital Assist のホームページより「基本ソフト」formpat_xxxx.exe (xxxx はバージョン) をダウンロードします。
2. formpat_xxxx.exe をダブルクリックして実行します。
3. [インストールするフォルダ]ではデフォルト C:¥Temp のまま[OK]ボタンをクリックします。一時解凍先フォルダを変更することも可能です。
4. [セットアップウィザード]が開始します。[次へ>]ボタンをクリックします。
5. [インストールフォルダの選択]ではデフォルト C:¥FormPat¥ のまま[次へ>]ボタンをクリックします。
6. [インストールの確認]でも[次へ>]ボタンをクリックします。
7. インストールが開始されます。
8. インストールの完了確認では[閉じる]ボタンをクリックして終了します。

FormPat 承認期限監視サービスオプションのインストール

承認期限監視サービスは、オプションソフトウェアです。

オプション契約されていない場合は、「デフォルト環境設定ファイル のインストール」へ進んでください。

1. Digital Assist のホームページより「承認期限監視サービス」wfagent_xxxx.exe (xxxx はバージョン)をダウンロードします。
2. wfagent_xxxx.exe をダブルクリックして実行します。
3. [解凍先を指定して下さい]ではデフォルト C:\¥WorkFlowAgent のまま[OK]ボタンをクリックして解凍します。
4. 解凍後のフォルダ内の setup.exe をダブルクリックして実行します。
5. インストーラに従い、任意のディレクトリにインストールします。
6. [管理者ツール]から[サービス]を起動します。
7. サービスでは、 WorkFlowAgent を選択後、[操作]→[プロパティ]を選択します。
8. [スタートアップの種類]に[自動]を選択、[開始パラメータ]に FormPat フォルダ (C:\¥FormPat)を入力し、[開始]をクリックします。



9. サービス開始後、[OK]をクリックします。
10. サービスを終了します。

フォルダファイル のインストール

1. Digital Assist のホームページより「フォルダファイル」 folder_xxxx.exe (xxxx はバージョン)をダウンロードします。
2. folder_xxxx.exe をダブルクリックして実行します。
3. [解凍先を指定して下さい]ではデフォルト C:\FormPatData のままで[OK]ボタンをクリックして解凍します。

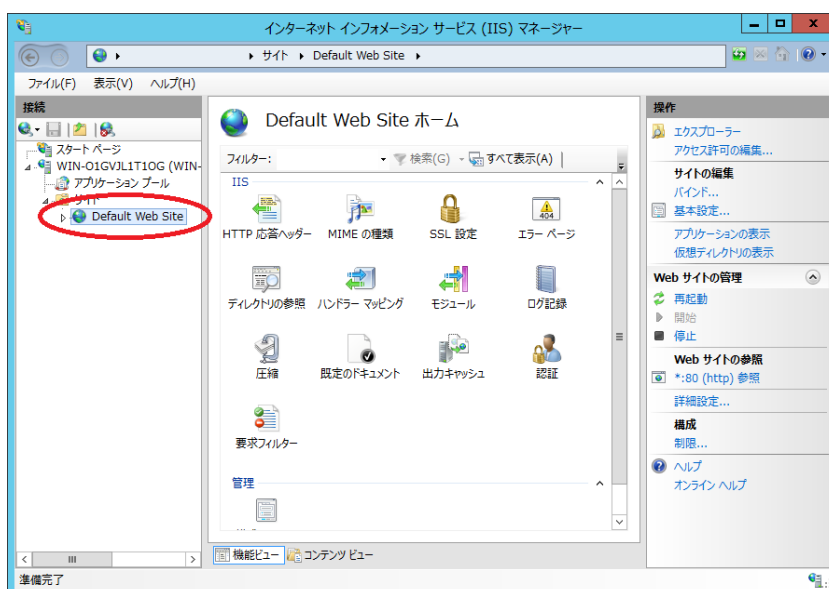
IIS の設定

本章では、Windows Server 2012 R2 および Windows Server 2012 について記述します。他の OS については「FormPat 3.0 環境設定ガイド（補足）」を参照してください。

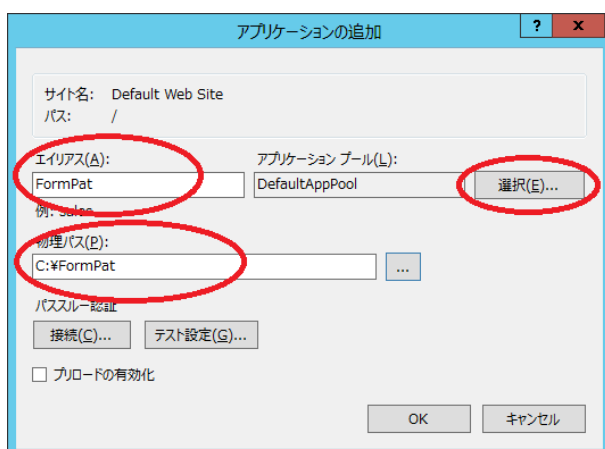
1. [管理ツール]から[インターネット インフォメーション サービス (IIS) マネージャー]を起動します。

起動時、「最新の Web Platform コンポーネントとの接続を維持するため、Microsoft Web Platform の使用を開始しますか？」とメッセージが表示された場合、[いいえ]を選択します。

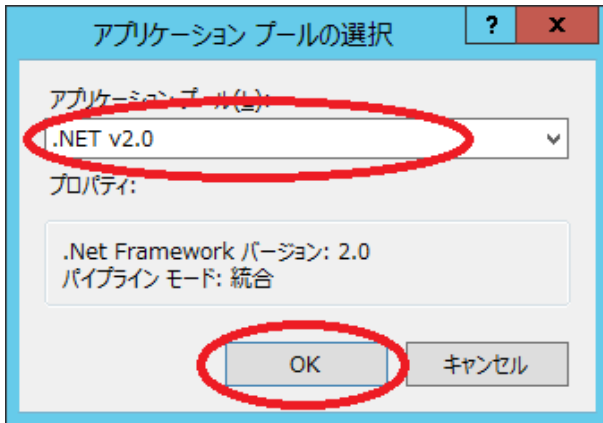
インターネット インフォメーション サービス (IIS) マネージャーでは、左ペインのツリーを展開し、[Default Web Site]を右クリックし、[アプリケーションの追加]を選択します。



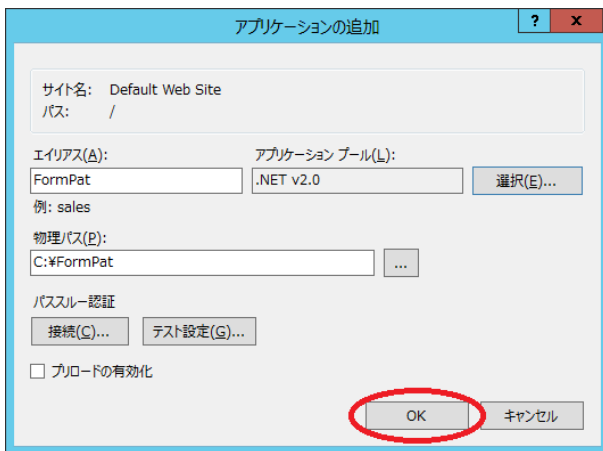
2. アプリケーションの追加では、エイリアスに FormPat 、物理パスに C:¥FormPat と入力し、[選択]をクリックします。



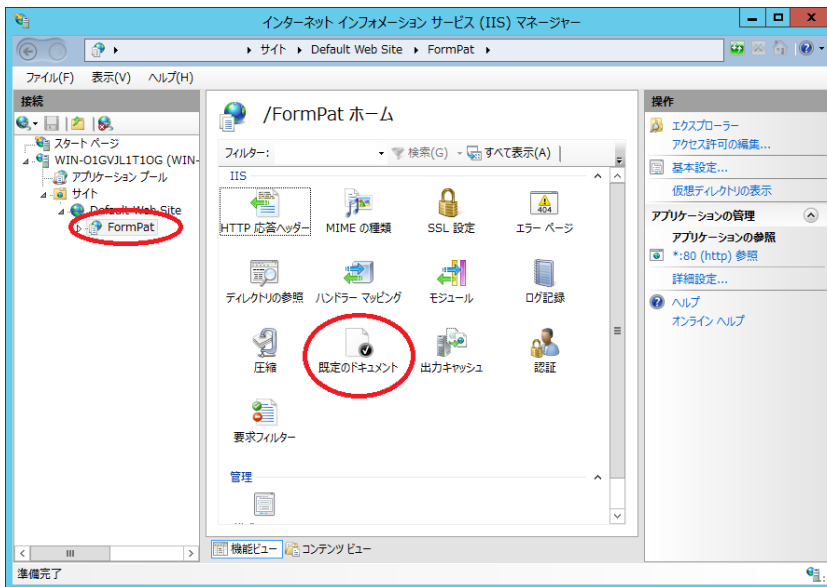
3. アプリケーションプールの選択では、アプリケーションプールに[.NET v2.0]を選択し、[OK]をクリックします。



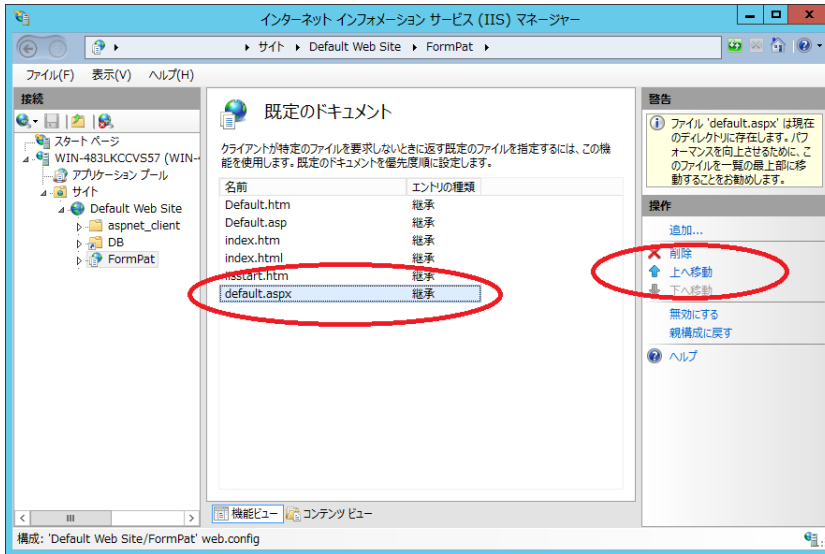
4. アプリケーションプールに戻ると、[OK]をクリックします。



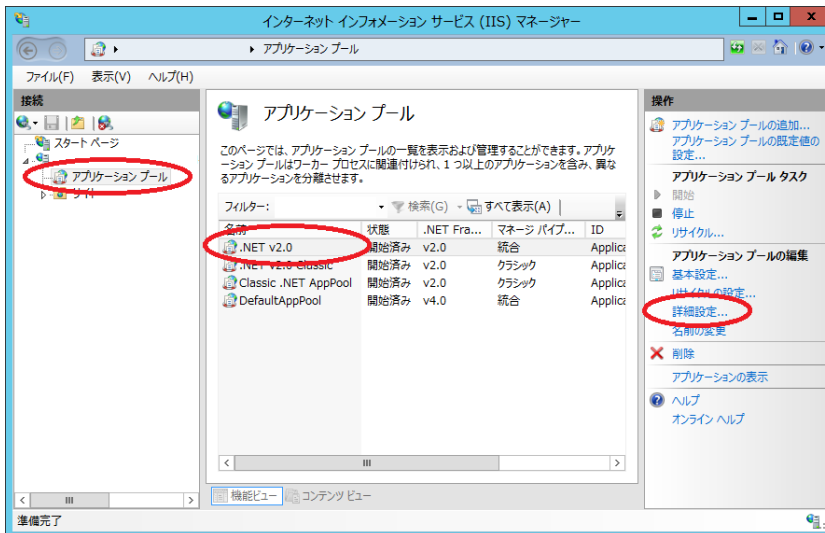
5. 左ペインの[FormPat]を選択し、[既定のドキュメント]をダブルクリックします。



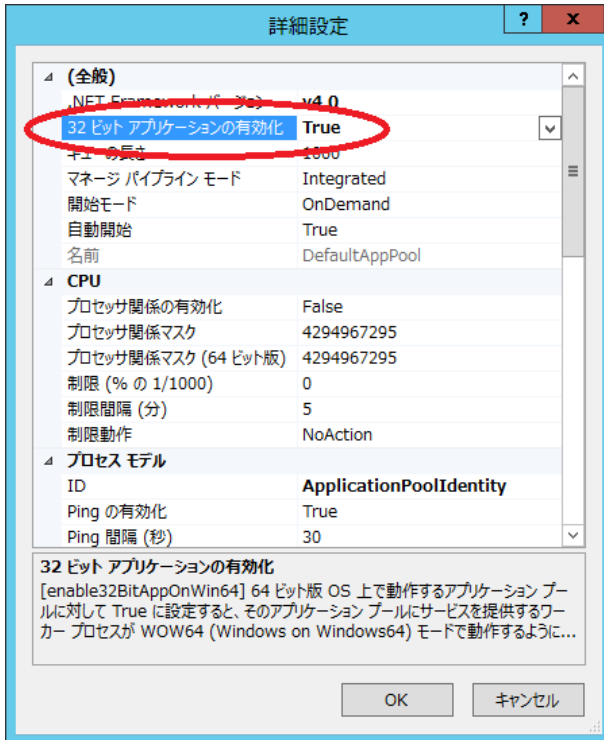
6. [既定のドキュメント]の default.aspx を選択し、[上へ移動]をクリックして default.aspx を最上段に移動します。



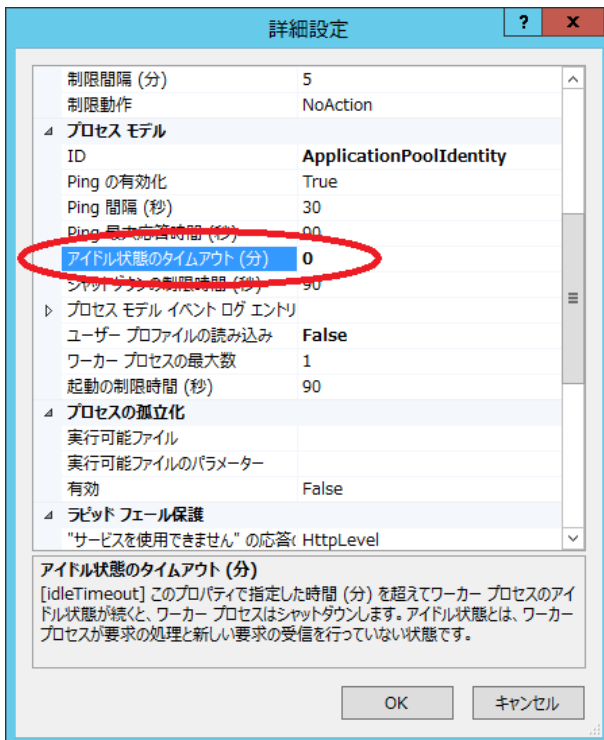
7. インターネット インフォメーション サービス (IIS) マネージャーの左ペインの[アプリケーション プール]を選択、[.NET v2.0]を選択、[詳細設定...]をクリックします。



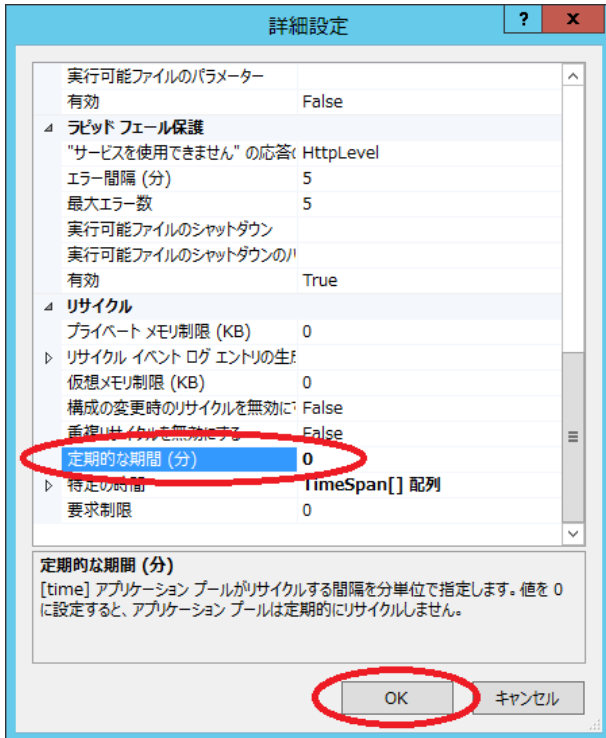
8. 詳細設定では、[32 ビット アプリケーションの有効化]を True へ変更。



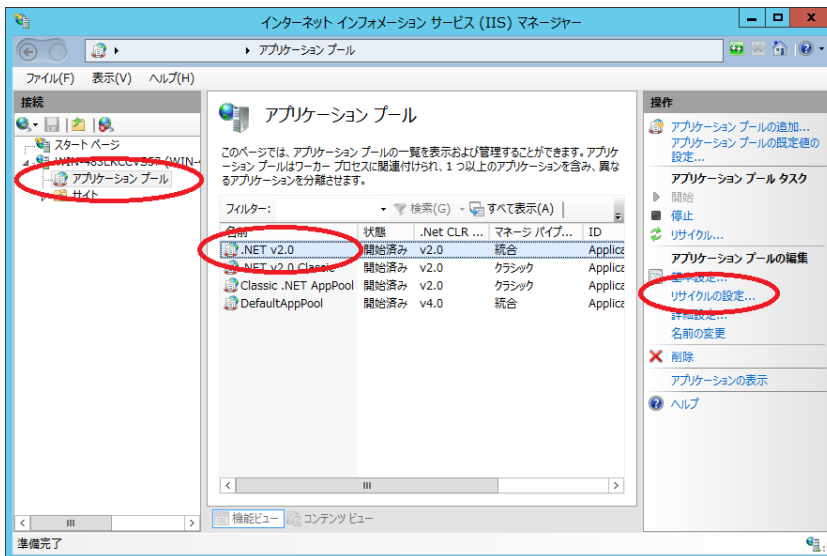
9. 続けて、[アイドル状態のタイムアウト]を 0 へ変更。



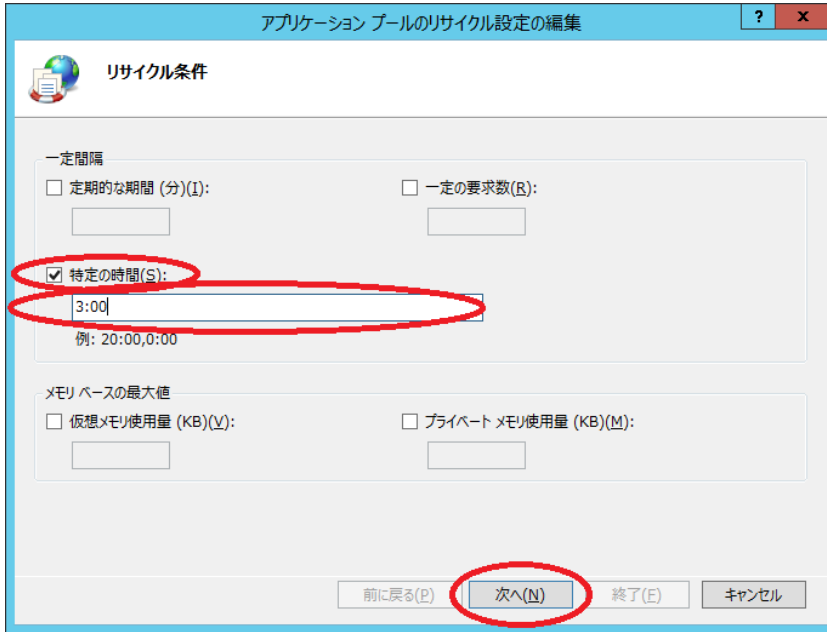
10. 続けて、[定期的な間隔]を 0 に変更し、[OK]をクリックします。



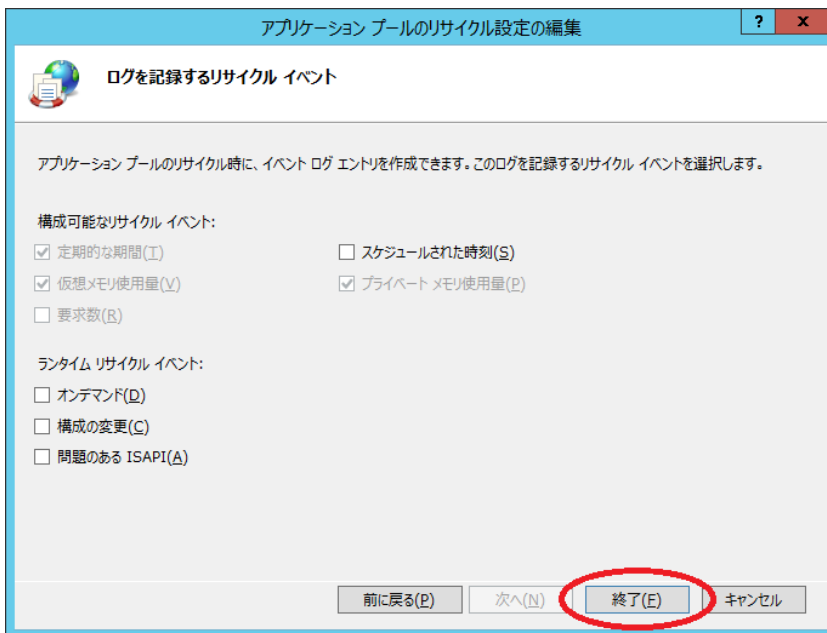
11. 13.~15.は FormPat をより安定稼働させるために可能なら設定してください。
インターネット インフォメーション サービス (IIS) マネージャーの[.NET v2.0]が選択された状態で[リサイクルの設定...]をクリックします。



12. アプリケーションプールのリサイクル設定の編集では、[特定の時間]をチェックし、サーバーが作動中で FormPat を利用しない時刻を入力後、[次へ]をクリックします。



13. アプリケーションプールのリサイクル設定の編集の次の画面では、[終了]をクリックします。



14. インターネット インフォメーション サービス (IIS) マネージャーを終了します。

データベースの設定

1. Digital Assist のホームページより「データベース環境設定ファイル」
script_XXXX.exe(XXXX はバージョン)をダウンロードします。
2. script_XXXX.exe (自己解凍ファイル) をダブルクリックして実行します。
3. [解凍先を指定して下さい]はデフォルト C:¥ScriptFolder のままで[OK]ボタンをクリックして解凍します。
4. [コマンド プロンプト]を起動します。
5. コマンド プロンプトでは、次のコマンドを実行し、データベースを作成します。
osql -U sa -P *password* -i C:¥ScriptFolder¥Database.sql
password は データベースのインストール時に [ビルトイン SQL Server システム管理者アカウント]で入力したパスワードです。
SQL Server 2005, 2000 では、sa ログインに割り当てたパスワードです。
6. データベースの作成が終了後、exit コマンドを入力してコマンドプロンプトを終了します。
7. script_XXXX.exe の解凍後に作成されたフォルダ(デフォルトは C:¥ScriptFolder)は削除しても問題ありません。

[参考]

既存インスタンス以外にデータベースを作成する場合、5. のコマンドに

-S Server 名¥instance 名

を追加してください。

環境ファイルの設定

運用中システムの環境ファイルの変更は、ユーザーがログインしていない状態で行ってください。

Web.config ファイルの設定

当ガイド記載の既定インストール先へ FormPat をインストールした場合、設定の必要はありません。「システム環境ファイル(control.xml)の設定」へ進んでください。

1. [メモ帳]のメニューから[ファイル]→[開く]を選択し、C:\FormPat\Web.config を開きます。
2. ログファイルのパス
`<add key="logfile" value="C:\FormPatData\temp\"/>`
C:\FormPatData\temp はログファイル(LogFileyyyyymm.log)を格納するパスを設定します。
3. ログファイルの出力レベル
`<add key="errorlevel" value="2" />`
2 はエラー情報を出力する場合は 1、ステータス情報を出力する場合は 2、詳細情報を出力する場合は 3 を設定します。ログファイルの容量は 1 < 2 < 3 となります。
4. [メモ帳]のメニューから[ファイル]-[上書き保存]を選択し、[メモ帳]を終了します。

システム環境ファイル(control.config)の設定

1. [メモ帳]のメニューから[ファイル]→[開く]を選択し、C:\FormPat\control.config を開きます。
導入環境により環境ファイルのデフォルト値を変更してください。
2. データフォルダのパス
データフォルダをデフォルトパス以外に移動する場合に設定してください。
ただし、移動先フォルダには、上記「FormPat フォルダの環境設定」と同じ設定を行ってください。
`<addr_abs_data>C:\FormPatData\data</addr_abs_data>`
C:\FormPatData\data はフォームデータ(拡張子.xml)を格納するフォルダを絶対パスで設定します。
3. フォームフォルダのパス
フォームフォルダをデフォルトパス以外に移動する場合に設定してください。
ただし、移動先フォルダには、上記「FormPat フォルダの環境設定」と同じ設定を行ってください。
`<addr_abs_form>C:\FormPatData\form</addr_abs_form>`
C:\FormPatData\form は FormPat Designer で定義したフォーム定義(拡張子.xml)を格納するフォルダを絶対パスで設定します。
4. イメージフォルダのパス

イメージフォルダをデフォルトパス以外に移動する場合に設定してください。

ただし、移動先フォルダには、上記「FormPat フォルダの環境設定」と同じ設定を行ってください。

```
<addr_abs_image>C:¥FormPatData¥image¥</addr_abs_image>
```

C:¥FormPatData¥image¥ は FormPat Designer で定義したイメージファイル(拡張子.jpg)を格納するフォルダを絶対パスで設定します。

5. 印鑑フォルダのパス

印鑑フォルダをデフォルトパス以外に移動する場合に設定してください。

ただし、移動先フォルダには、上記「FormPat フォルダの環境設定」と同じ設定を行ってください。

```
<addr_abs_esd>C:¥FormPatData¥esd¥</addr_abs_esd>
```

C:¥FormPatData¥esd¥ は 捺印時に使用する印鑑画像ファイル(拡張子.png)を格納するフォルダを絶対パスで設定します。

6. テンポラリフォルダのパス

一時ファイルをデフォルトパス以外に移動する場合に設定してください。

ただし、移動先フォルダには、上記「FormPat フォルダの環境設定」と同じ設定を行ってください。

```
<addr_abs_temp>C:¥FormPatData¥temp¥</addr_abs_temp>
```

C:¥FormPatData¥temp¥ は FormPat が作業中の一時ファイルを格納するフォルダを絶対パスで設定します。

7. インポートテンポラリフォルダのパス

「インポート」オプションを導入される場合のみ使用します。

一時ファイルをデフォルトパス以外に移動する場合に設定してください。

ただし、移動先フォルダには、上記「FormPat フォルダの環境設定」と同じ設定を行ってください。

```
<addr_abs_import>C:¥FormPatData¥tempimport¥</addr_abs_import>
```

C:¥FormPatData¥tempimport¥ は FormPat がインポート作業中の一時ファイルを格納するフォルダを絶対パスで設定します。

8. 添付フォルダのパス

添付フォルダをデフォルトパス以外に移動する場合に設定してください。

ただし、移動先フォルダには、上記「FormPat フォルダの環境設定」と同じ設定を行ってください。

```
<attachabs>C:¥FormPatData¥att¥</attachabs>
```

C:¥FormPatData¥att¥ は フォームデータに添付するファイルを格納するフォルダを絶対パスで設定します。

9. 電子メール機能の有無

```
<smtp_on>0</smtp_on>
```

0 はワークフローで申請フォーム受信時の電子メール機能を利用しない場合は **0**、利用する場合は **1** を設定します。

10. メール送信の環境

```
<smtp_auth>mode=0;smtp_server=smtp.domain.co.jp;smtp_port=25;pop3_server=pop3.domain.co.jp;pop3_port=110;uid=account;pwd=accountPwd;sender_address=id@domain.co.jp</smtp_auth>
```

電子メール機能を利用する場合はメール送信環境を設定します。電子メール機能を利用しない場合は変更不要です。

0 はメールサーバーの SMTP 認証方式を設定します。SMTP 認証の必要ない場合は 0、「AUTH-PLAIN」認証方式は 1、「AUTH-LOGIN」認証方式は 2、「AUTH-CRAM-MD5」認証方式は 3、「POP before SMTP」認証方式は 4 を設定します。

smtp.domain.co.jp は SMTP サーバー名を設定します。(すべての認証方式で設定が必要です。)

25 は SMTP ポート番号を設定します。(すべての認証方式で設定が必要です。)

pop3.domain.co.jp は POP3 サーバー名を設定します。(mode=4 のとき設定が必要です。)

110 は POP3 ポート番号を設定します。(mode=4 のとき設定が必要です。)

account は SMTP 認証のアカウント名を設定します。(mode=1 or 2 or 3 or 4 のとき設定が必要です。)

accountPwd は SMTP 認証のパスワードを設定します。(mode=1 or 2 or 3 or 4 のとき設定が必要です。)

id@domain.co.jp はメール送信を行うメールアドレスを設定します。(すべての認証方式で設定が必要です。)

11. データベースの環境

```
<database>server=127.0.0.1;uid=sa;pwd=password;Initial Catalog=FormPat</database>
```

127.0.0.1 はサーバー運用ならデータベースのホスト名または IP アドレスを設定します。スタンドアロン運用なら変更不要です。

sa はログイン名を設定します。

デフォルトでインストールされた場合は変更不要です。

password はログイン名のパスワードです。

データベースのインストールで入力したパスワードを設定します。

Initial Catalog=FormPat は変更不要です。

12. 統合 Windows 認証

```
<authentication>0</authentication>
```

0 は FormPat ログイン認証に、統合 Windows 認証を利用するか設定します。

統合 Windows 認証を使用しない場合は 0、使用する場合は 1 を設定します。

FormPat 導入時は、0 を設定します。統合 Windows 認証は FormPat 導入処理完了後、設定してください。

詳しくは「統合 Windows 認証について」を参照してください。

13. [メモ帳]のメニューから[ファイル]→[上書き保存]を選択し、[メモ帳]を終了します。

FormPat の動作確認

Internet Explorer を起動してアドレスに `http://127.0.0.1/FormPat/` と入力してください。
FormPat のログイン画面が表示されると環境設定は完了です。

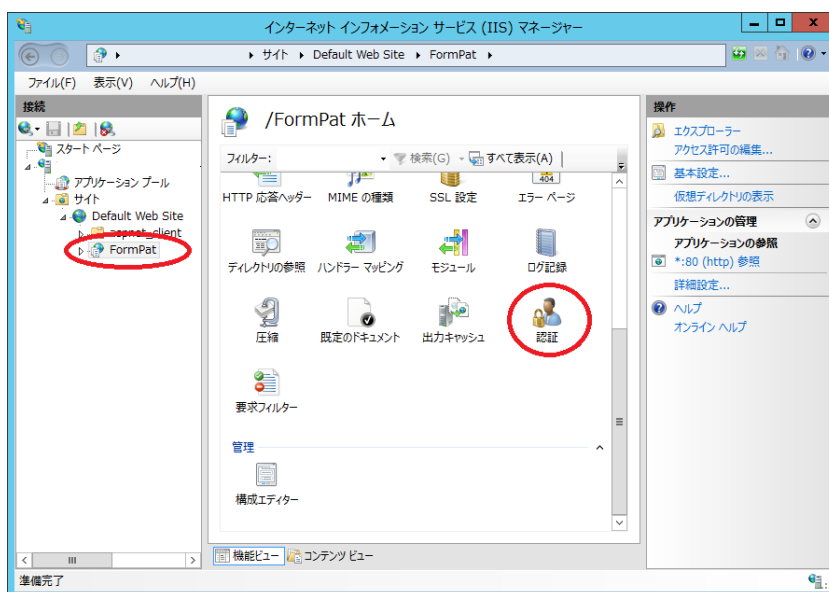
統合 Windows 認証について

本章では、Windows Server 2012 R2 および Windows Server 2012 について記述します。他の OS については「FormPat 3.0 環境設定ガイド（補足）」を参照してください。

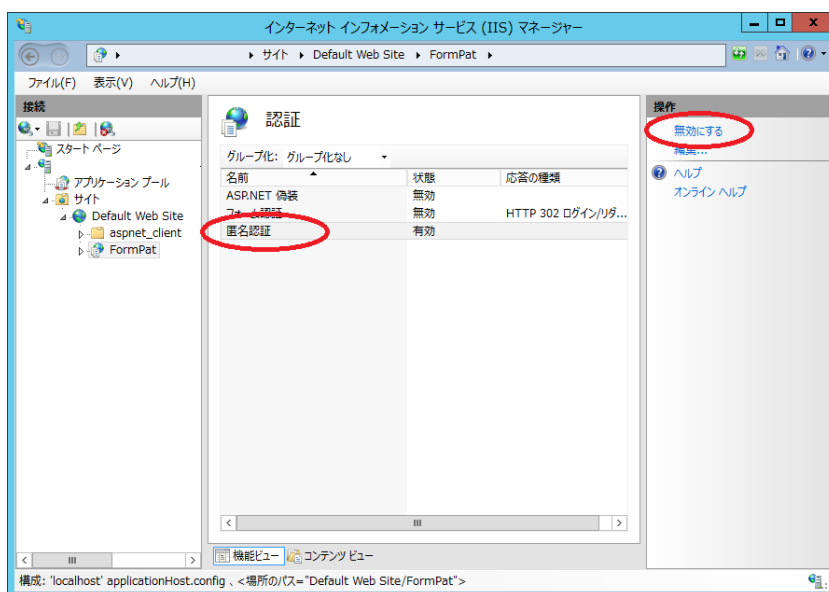
FormPat のログイン認証に加えて、統合 Windows 認証に対応しています。

統合 Windows 認証を利用することで、Windows へログインしていると FormPat へのログインを省くシングルサインオンが可能になります。

1. [インターネット インフォメーション サービス (IIS) マネージャー]を起動します。
2. インターネット インフォメーション サービス (IIS) マネージャーでは、左ペインのツリーを展開、[FormPat] を選択し、[認証]をダブルクリックします。



3. [認証]ページでは、[匿名認証]→[無効にする]を選択します。



4. インターネット インフォメーション サービス (IIS) マネージャーを終了します。
5. [メモ帳]を起動します。

メモ帳では、メニューから[ファイル]→[開く]を選択し、control.config を開きます。
デフォルトのファイルの場所は C:¥FormPat¥control.config です。

6. control.xml から下記の記述を検索します。

```
<!-- 統合 Windows 認証(0:無, 1:有) -->  
<authentication>0</authentication>
```

0 を 1 に変更します。

7. メモ帳のメニューから[ファイル]→[上書き保存]を選択します。
8. メモ帳を終了します。

統合 Windows 認証が有効な場合、ログインは以下の通りとなります。

- ・ドメインアカウントを保有しているユーザー

1. <http://localhost/FormPat/> にアクセスします。
2. 統合 Windows 認証が正常に終了した場合はメニューページが表示されます。
統合 Windows 認証が失敗した場合はログインページが表示されます。
- 3.

- ・ドメインアカウントを保有していないユーザー

1. <http://localhost/FormPat/?na=1> にアクセスします。
[?na=1](#) は統合 Windows 認証が有効な場合でも、統合 Windows 認証を行わずにログインページを表示するためのパラメータです。ドメインアカウントを保有していないユーザーが混在する場合、保有していないユーザーからのアクセスにはパラメータを付加したアドレスを使用してください。
2. 統合 Windows 認証ダイアログが表示されます。
事前に作成しておいた Windows の汎用的なアカウントでログインします。
3. ログインページが表示されます。FormPat のユーザーID でログインします。

インポートオプションについて

インポートオプションをご契約の場合、CSV形式のファイルを FormPat 内のフォームへ取り込む機能をご提供します。

実行ファイルは C:\%FormPat%\import\CsvImport.exe にあります。CsvImport.exe をダブルクリックすると実行します。

また、操作手順は C:\%FormPat%\import\index.html にあります。

これらのファイルは必要に応じてスタートメニューなどへ登録してご利用ください。

C/S 環境でクライアントにインポート実行ファイルを置いてクライアントから FormPat サーバーへインポートを実行することも可能です。

ただし、クライアントに .NET Framework 2.0 のインストールが必要です。

以下に、導入手順を紹介します。

1. クライアントに適当な名前のフォルダを作成します。
以降は C:\%FormPat%\Import フォルダを作成したとして記載します。実際に作成されたフォルダ名に置き換えてください。
2. FormPatImport フォルダの下に exe フォルダを作成します。
3. exe フォルダに FormPat サーバーからインポート実行関連ファイル一式をコピーします。インポート実行関連ファイルはサーバーの C:\%FormPat%\import のファイル一式です。
4. FormPatImport フォルダの下にインポート用一時作業フォルダ tempimport を作成します。
5. FormPatImport フォルダに FormPat サーバーから control.config をコピーします。
control.config の場所はサーバーの C:\%FormPat%\control.config です。
6. [メモ帳]のメニューから[ファイル]-[開く]を選択し、control.config を開きます。
ファイルの場所は C:\%FormPat%\Import\control.config です。
7. control.config のデータフォルダのパスを変更します。
<addr_abs_data>C:\%FormPat%\Data\data%\</addr_abs_data>
C:\%FormPat%\Data\data% の部分を %%サーバー名\data% へ変更します。
データフォルダ名をデフォルト data から変更された場合は data の変更も必要です。
8. フォームフォルダのパスを変更します。
<addr_abs_form>C:\%FormPat%\form%\</addr_abs_form>
C:\%FormPat%\form% の部分を %%サーバー名\form% へ変更します。
フォームフォルダ名をデフォルト form から変更された場合は form の変更も必要です。
9. インポートテンポラリフォルダのパスを変更します。
<addr_abs_import>C:\%FormPat%\tempimport%\</addr_abs_import>
C:\%FormPat%\tempimport% の部分を c:\%FromPat%\Import\tempimport% へ変更します。
10. データベースの環境を確認します。

<database>server=127.0.0.1;uid=sa;pwd=password;Initial Catalog=FormPat</database>

127.0.0.1 はデータベースのホスト名または IP アドレスを設定します。

sa はログイン名を設定します。

デフォルトでインストールされた場合は変更不要です。

password はログイン名のパスワードです。

データベースのインストールで入力したパスワードを設定します。

Initial Catalog=FormPat は変更不要です。

11. control.config の上記以外のタグはインポートオプションでは使用しません。
 12. [メモ帳]のメニューから[ファイル]→[上書き保存]を選択し、[メモ帳]を終了します。
 13. クライアントからサーバーへアクセス可能にするため、データフォルダとフォームフォルダへの共有設定とアクセス許可設定を行います。ただし、アクセス許可設定はファイルシステムが NTFS の場合に必要です。
ここからはサーバーでの作業となります。
 14. データフォルダの共有設定とアクセス許可設定を行います。
データフォルダのデフォルトの場所は C:¥FormPatData¥data です。
 15. [エクスプローラー]で C:¥FormPatData¥data フォルダを選択し、メニューの[ファイル]→[プロパティ]を選択します。
プロパティの[共有]タブの「このファイルを共有する」を選択します。
 16. プロパティの[セキュリティ]タブの「グループ名またはユーザー名」にログインユーザーのグループ名またはユーザー名を追加します。
 17. 追加したグループ名またはユーザー名のアクセス許可に「書き込み」を設定します。
プロパティの[OK]をクリックし変更内容を保存します。
 18. 次に、フォームフォルダの共有設定とアクセス許可設定を行います。
フォームフォルダのデフォルトの場所は C:¥FormPatData¥form です。
 19. [エクスプローラー]で C:¥FormPatData¥form フォルダを選択し、メニューの[ファイル]→[プロパティ]を選択します。
プロパティの[共有]タブの「このファイルを共有する」を選択します。
 20. プロパティの[セキュリティ]タブの「グループ名またはユーザー名」にログインユーザーのグループ名またはユーザー名を追加します。
 21. 追加したグループ名またはユーザー名のアクセス許可に「読み取り」を設定します。
プロパティの[OK]をクリックし変更内容を保存します。
 22. [エクスプローラー]を終了します。
- 以上で、クライアントからのインポートを実行する環境設定は完了です。